

# 日本イエナプラン教育協会



## ニュースレター Vol.12 2011. 10月号

発行元: 日本イエナプラン教育協会

編集: 田村 悠子

住所: 〒155-0033

東京都世田谷区代田6-3-22-202

TEL: 070-5559-0361 FAX: 03-3466-3439

HP: <http://www.japanjenaplan.org/>

mail: [Info@japanjenaplan.org](mailto:Info@japanjenaplan.org)

来月、リヒテルズ直子氏が帰国されます。それに伴い、日本イエナプラン教育協会主催の1周年記念講演会・ワークショップを企画しておりますので、皆さまぜひご参加下さい！

編集(田村)

### 第11回

#### 20年後の社会を目指した理想の共同体としての学校づくり

~~~「催し」と喜怒哀楽の共有子どもの態度は大人の態度の反映~~~

#### リスペクトということ

協会代表 リヒテルズ直子

イエナプラン教育には、4つの基本活動の中の1つに「催し」があります。

オランダ語でvieringという語は、英語ならばcelebrationに当たり、私が「催し」と訳しているこの言葉は、実は、<祝祭>というような、お祝い事の意味を持っています。

ただ、日本で「お祝い事」と言ってしまうと、言ってみれば紅白のおまんじゅうを出してもおかしくないような、慶ばしい催しだけになってしまいます。でも、イエナプランの「催し」は、実は、慶ばしいことだけではなく、哀しいこと、辛いことなども含まれます。

基本的に「催し」という活動によってイエナプランで意図されていることは、この活動を通して、喜びや悲しみ、怒りや楽しさを仲間とともに共有すること、それによって、共感の高い社会づくりをすること、そういう場で育つ子どもたちが、やがて大人になっても、「自分は自分、他人は他人」と、同じ社会にいる他の人の感情を慮ることもないような思慮の浅い人間になることのないように、と願っているのです。

イエナプランの学校では、クラスルームで、また、学校の行事として、「催し」がしばしば行われます。

クラスルームで行われる催しの代表は、クラスメートの誕生日のお祝い。クラスの誰か、または、クラスのグループリーダー(担任教員)が誕生日の日には、朝のサークルで、みんなでお祝いの言葉をかけたり歌を歌ったりします。

誕生日を迎えた子どもは、バースデーケーキの形をした帽子などを被り、家でお母さんが用意してくれた小さなカップケーキやチョコレートなどをかごに入れて、学校中の先生のところに挨拶に行きます。他学年の先生や、校長先生など、普段は廊下ですれ違うだけの先生と、その時に親しく話をするのです。先生たちは、かごからカップケーキやチョコレートをつまんで「おめでとう」と言いながら、その子が一緒に持ってきたカードに一言お祝いの言葉を書き、サインをして、キスやハグをしたり握手をしたりしてやります。

誕生日は、学校で何か新しいことを学ぶのと同じように、子どもにとって、成長の証しとして、大切な日なのです。だから、同じ誕生月の子どもを「ひとまとめ」にしてグループでお祝いするなどというのではなく、一人ひとりの子どもにとって、その子だけの大切な一日をみんなで共有するのです。

学校全体の「催し」には、もちろん、セント・ニコラスの日、クリスマス、イースター[復活祭]などといった、オランダの伝統的な祝日もありますが、最近では、移民の子どもたちが祝うイスラム教やユダヤ教の祝祭を共有しているところもあります。

そうすることで、お互いが背景として持っている文化を学ぶことができるからです。同時に、このような催しを通して、保護者が学校の行事に参加協力し、お互いの文化を学びあう機会にもなっています。

学校は、保護者が文化の壁を越えてお互いの文化をリスペクトし合うきっかけになる場としての意味も持っているのです。

年に1度の大きな「学芸会」のようなものは、オランダのイエナプラン校にはあまりありませんが、学びの成果を発表したり、子どもたちが自分で作った演劇や楽器演奏などを披露する場として、週に1度、金曜日の最後の1時間を使った『ミニ学芸会[週末学芸会]』が一般的に行われています。



Photo: リヒテルズ直子

発表するのは、一クラスの生徒ですが、観客は全校生徒とすべての先生たち、そして保護者です。毎週、交替で、どのクラスかが発表する出し物を用意します。全校には、8～9クラス程度あるのが普通ですから、当番が回ってくるのは、2～3か月に一回。ワールドオリエンテーションで学んだことを、劇や作品発表にすることもあります。

衣装や舞台設定などで、保護者に協力が要請される場合もあります。そのような活動を通して、保護者は、何か具体的な形で関わることができるのです。懇談会や授業参観とは異なり、学校活動の一部を担うことができます。

クリスマスやキャンプなどにも、学校は保護者の協力を積極的に求めます。少しでも多くの保護者が、少しでも多く学校の活動に参加することによって、学校での教育活動が、どういう理念のもとにどんな風に行われているのか、イエナプランでは大人と子どもの関係がどのように考えられているのかを実体験できる機会になっています。



Photo:リヒテルズ直子



Photo:リヒテルズ直子

### 『日本イエナプラン教育協会設立1周年記念講演会・ワークショップ』開催のお知らせ

11月20日(日)、1周年記念企画という事で、オランダ・イエナプランの教育理念に共感される方々のネットワークをさらに深められる講演会とワークショップを開催する事になりました。

皆さま、ぜひご参加下さい。会場でお目にかかれるのを楽しみにしています。

【日時】2011年11月20日(日)10時30分～16時30分

・前半(講演会)10時30分～12時30分

- ※日本イエナプラン教育協会活動報告
- ※小林氏(世田谷区立希望丘中学校教諭)のオランダ視察報告
- ※リヒテルズ直子氏の講演

・後半(ワークショップ)13時30分～16時30分

- ※リヒテルズ直子氏による【ワールドオリエンテーション】ワークショップ

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター、国際交流棟第1ミーティングルーム(<http://nyc.niye.go.jp>)

【定員】講演会(80名)・ワークショップ(30名)※先着順

【参加費】当日、会場でのお支払いをお願い致します。

- 1:前半(講演会)のみ参加:一般2,000円、会員1,500円
- 2:後半(ワークショップ)のみ参加:一般3,500円、会員3,000円
- 3:前半・後半共に参加:一般5,500円、会員4,500円

【お申し込み】件名を『1周年記念講演会・ワークショップ』とし、[info@japanlenaplan.org](mailto:info@japanlenaplan.org)宛に次の情報をお送り下さい。<<お名前・住所・電話番号・メールアドレス・性別・会社名/所属・参加の種別(1:前半のみ参加、2:後半のみ参加、3:前半・後半共に参加)>>



～新刊のご案内～

『祖国よ、安心と幸せの国となれ』1470円

オランダ社会が実現してきた、共生、多様性、平等性、市民社会が持つ民主主義と安心、幸せの原理... 日本を創り変えたいと願うすべての人に贈る、復興と再生へのビジョン。

古い社会に戻すか、新しい未来をこじあけるか、日本の針路を問う、待望の力作。

【株式会社ほんの木】

TEL:03-3291-3011

メール:[info@honnoki.co.jp](mailto:info@honnoki.co.jp)

## シリーズ:

### ケース・ボット(Kees Both)先生のイエナプランの出会いと歩み(その2)

オランダでの70年代以降のイエナプラン教育の発展にとってなくてはならない大切な専門家の一人、ケース・ボット先生へのインタビュー記録(その2)です。皆さま、どうぞお楽しみ下さい！

私がそんな記事を書いていた頃、スースは、私に、その頃、既に存在していたPervagroepという勉強会に参加するように勧めてくれました。Pervaというのは、「完全化(Perfectionering)」と「専門性(vakmanschap)」という言葉から作られた造語です。校長や教員や研修トレーナーたちが作っている一種の勉強会でした。彼らは、これも皮肉なことに、私がかつて学んだ教員養成校の建物にいつも集まって勉強会をしていたんですよ。

そのグループでは、ブロックアワーの仕方や、子どもたちの自由について話し合う一方、そもそも「自由」とは一体何であるのか、というようなことについて哲学的に深く掘り下げた議論をしたりしていました。こういう、一方で実践的なことを語りながら、他方では、深い意味を考えるとという組み合わせが、私にはとても特別のことに思えた。私は、今まで、自分が大事だと考えていたすべてのことが、何らかの場を得てしっくりと落ち着くというような、わくわくするような発見をすることができました。しかも、それは、理科教育だけをしていればいいというようなことではなくて、そのためには、子どもたちにこういう風に語りかけるのがいいとか、こんな風にやるのがいい、という風に話し合っているのです。それを見ているうちに、私は、いろいろなことが次々に頭に思い浮かび、「こここそが私にとって一番安心できるホームのような場所だ」と思えてきたのです。なんといいのかなあ、そこに来てやっと自分らしくしていただける場所を見つけた、というのか、、、だから、このグループは、教育学的な意味においても私のホームと言えるようなものとなりました。わたしは理科教育を入り口にしていただけで、そこにいた他の人たちは、言語、芸術教育、民主教育などを入り口にして、同じように自分にとってのホームだと感じていたのだと思います。

#### Q.でも、ホームだと感じさせるものはいったいなんだったのでしょうか？

A.特に子どもたちへの対し方です。そして、それは、多分、私自身の、必ずしも気持ちがいいとは思えなかった小学校での経験とも関係しています。私は、子どもの頃、かなり恥ずかしがり屋だった。すぐに先生に目をつけられやすい子だった。学級内の秩序をうまく保つのが下手な先生からもよく目をつけられ、いやな思いをさせられていた。私は、ほんとうは優しい子だったはずなのだけだね。

#### Q.そういう教育学的なコンセプトの中の、特に何にそんなに魅かれたのですか？

A.子どもたちそれぞれの特性を、多様性の中できちんと見分けて待遇するということ。それから、とても魅力的に感じたのは、子どもを侮蔑しない態度でした。子どもたちは高く引き上げられる。私自身の小学校時代の経験では、私は、矮小化されていると感じることがとても多かった。「お前は何者でもない、お前はそんなにたくさんできはしない。」という風にね。

私の母は6年生の時に保護者会に来て、校長先生に、私の担任教師のことをこう言っているんです。

「またどうせ、ケースについては、特に何もなし、とおっしゃるんでしょう？」

ハハハ、そういうコメントを毎年貰っていたんだね、僕は。すると、その時に、この、高学年担当の先生だったドゥースマ先生は、

「どうしてそんなことをおっしゃるんですか。」

といて、それから、私が本当にできることをずっと述べ始めたのだそうです。そういう先生がいると子どもは伸びていくんだよね。

私がイエナプラン教育の中で魅力だと感じたこと、そして、今も感じていることは何かというと、これまでとは異なる全く違う教育へのアプローチについて枠組みとなる構造を持って関わっていることで、それは、子どもたちがグングン伸びることを目指していることなんですよ。イエナプラン教育は、子どもたちが持っている強い点を探していき、それをもとにして、その上に育ちを支援していく。私が「これこそ私のホームだ。」と感じたのは、同じように考える人たちがそこにいたからだと思います。そして、イエナプランというフィールドに対して、相当に大きなつながりを感じました。

Q.確かに私たちは皆そういう主観的なコンセプトを持っています。そして、今私が、あなたからは是非聞きたいと思うのは、あなた自身はイエナプランについてどんな主観的なコンセプトを持っているのか、あなたのお腹の中からの、あなたの心からのコンセプトはなんなのか、です。イエナプランの中の何が、あなたに最も多くを語りかけてくるのですか？もしかすると、とても難しい質問かもしれませんが、、、

A.何よりも言えることは、いま言ったように、子どもたちに公正な待遇を与えるということです。それから私がイエナプランの中でとても興味深く思っていて、今もそう思っているのは、現実との関わり方、物事への関わり方の正しさということです。結局はワールドオリエンテーション全体ということですね。もちろんそれは、私の専門分野です。批判的に関わるという側面、社会についても文化についても。それは、基本原則の中にも書かれているし、私にとっても大変重要なコンセプトの側面です。いまだかつて存在した試みもないような社会に対してノスタルジックな郷愁を抱く、というようなものではなく、人間の価値を認め、エコロジカルで持続可能性の高い社会を目指して批判的に物事を考える姿勢というもの。そこにもまた、ユートピア的な側面は確かにあるのだけれども、私にとって、それは、もろもろの関係性の中に、完全性を求めていく、とでもいうか。私にとっては、私自身の来し方とも大きくかかわっています。意味づけ、精神性、倫理といったものを公正に取り扱う。そういうものを人がどう呼ぶかは知らないが、神秘性に対する目、秘密の

ある事柄への関わり。私は、元々とても経験主義的だし、感覚で物事を掴むことを好むし、物事を理解できることを望むし、地に2本足をしっかりつけておきたいタイプです。しかし、それでも同時に、「いったいこれは何なんだ？」と自分ではつかみきれないような驚きの中で物事を考えるというような精神世界も好みます。ある種の豊かさ以上の、もう一つ別の種類の豊かさ、とでも言ったらいいのかな、もっと深い側面を見るというような。平面的な地形以上のものがあるのです。イエナプランには、私の心をとらえる人間や世界のイメージがあるんです。それは、私という個人に関わるものでもあり、私が、物事や人と関わるその仕方にも関係するものだと思います。私の人生観そのものに関わるようなものです。

Mensen-Kinderen(オランダイエナプラン教育協会の機関誌)の中で、こういうことについて記事を書いたことがあります。特に静寂について書いた記事です。この新しい小学校のコンセプトの中で、イエナプラン教育の質基準の一つになっているのは、「イエナプラン校は、意味や意義を求める学校である」ということです。

**Q.つまり、あなたがスースに出会ったとき、あなたは、あなたの人生観の一部と出会い、それは、一度は必ず表に現れてくるべきだった、ある種の教育的なコンセプトであった、ということですね。**

A.ええ、「こういうものが存在していたのか」というショックだね。

### Q.一種の驚き、ということ？

A.そう、そして、それによって、あらゆるバラバラだった要素がお互いに強化されていくという。それもこのコンセプトが持っている強みだと思う。私は今でもその強さに驚いています。そして、いくつかの要素を持っていて、それが常に現状に合わせてアップデートされる。これは、新しい小学校教育のコンセプトとしても文言化されています。たとえば、時間について考えてみたらいい。イエナプランは『急ぐな』と言っている。そのことについて私はよくこう思います。

「ペーターセンの時代によくそんなことが考えられたものだなあ。当時は、私たちの時代とは違って、そんなに時間のテンポは速くなかっただろうに。」と。

でも、そういう私たちが学ばなくてはならない考え方、時には、集中したり、緊張を緩和させたりしながら学ぶ、というそういう考えは、その当時にすでに基本の考え方として表現されていた。それは、もちろん、これまでに無いほど今日のリアリティに訴えてくるものがある。なぜなら、私たちは、こうせよ、あせよ、とすべてを決められたのでは、病気になってしまうだろうから。

それから、私たち人間には、ある『山』を越えたら『谷』に向かう、というようなことがあるのだが、それはなかなかうまく乗り越えられない。そういうものを一体どう表現したらいいのか、、、もう一度、静かに自分自身に戻るにはどうすればいいのか。しかし、それも、コンセプトの中に含まれています。そういうものは、学校に空間を与えること、学校をリビングルームとしてとらえることの中に含まれています。これも、私は、今のように、右から左へと忙しくて動的な時代にとても大事なことだと思います。しかも、それは、環境問題とも結びつけられるものです。時間について深く熟考しながら学んでいくことは、自然や環境の教育という側面からも重要なことなんです。私たちは、ペーターセンがやったのとは異なる方法で基礎づくりをしているが、当時と現在との間にはしっかりとした継続的な一貫性があります。私たちは、他の人が、自分自身の理解や手段を使って、こういうコンセプトに形を与えることを当然だと考えます。

**Q.それは、あなたがいつも「私は、コンセプトの中に生き方を見出す。文字通り、それは、人生のオリエンテーションである」と言っていることと一致していますね。**

ええ、それはとても多くのことに当てはまるのです。今起きている、さまざまな出来事の成り行きを見ている、大半において、このコンセプトの中に、解決を見出すための力がある。特に基礎原則の中に。私は、どちらかというと、伝統というものを大切に人間です。しかし、ただ、過去を繰り返しているだけではだめなんです。それはナンセンス、私たちはイエナプランにおいてそんなやり方はしない、少なくとも私はやらない。私は、ドグマ[独善]というものは、すべて嫌い。現実がどういう具合になっているかとか、それについて何を学ぶべきかについて、とてもよくわかっているという態度をとる人が嫌い。そういうものに対して、私は我慢ができないのです。そういう時にこそ、私たちは、経験主義的でなくてはならない。すべての判定は、仮のもので、何世紀にもわたって続くということはありません。自分の人生や教育の中で、時



リビングルームのような教室 photo:リヒテルズ直子

には、伝統的なものを尊重することが良い結果を生むこともあるでしょう。それは、イエナプラン教育の運動の中でも言えることです。

反対に、何かにつけいつも新しいものを探していかななくてはいけないというのもノンセンスだと私は思う。また何かにつけ、「新しい」だとか！のマークを3つも重ねてつけたりするようなものばかばかしいことだと思います。そういうものに対して、「だからどうだっていうのかい？」と私は思ってしまう。また、「近代的な」というような言葉の使い方も私は信用しない。まるで、近代的であれば何でも「よい」ことだと考えているようだからです。近代化にもネガティブな面がある。かといって、ノスタルジーに浸って何でもかんでも昔がよかったというのも意味のないことです。私たちは、現代のいろいろな物事の発展に対して、批判的に見るように努めなくてはならない、でも、それは、なかなか容易なことではないのです。

新しい初等教育のコンセプトの中に、私は、そのような、社会発展との「二律背反的」な関わり方について、要点をまとめました。

**Q.ええ、私は、そういうあなたの論議の仕方がとても好きなんです。あなたは、よく、伝統的なものの見方と、コンセプトに従った見方との間でも、物事が新しい発展をするというような考えを示されます。そして、まるで、新しい視点を与えるのが面白くて仕方がないかのよう、とてもうまくそれを位置づけてみせる、、、**

A. それも「教育的な意味で自分の属すべきホームに戻る」ということと関係のあることなのです。それは、私自身が、学んで身につけなくてはならないコンセプトではなくて、自分自身の物の考え方や感じ方の中から、これまで畳まれ眠っていたものが何かに開かれていくように、何かを発見していくプロセスなのです。物事がそれなりの場を見だしていく、私の感じ方というなら、既にそこにあったものの中に、一種の枠組みのような構造が作られる、というような感じですね。そして、それは、私にとっては、今もずっと続いていることなのです。だから、私たちは、過去から来ているものについて、何はもう使えないのか、何について、本当にもっと別の考え方、感じ方、をしなければならないのか、という点について、ペーターセンがしていたように、明確でなければならないと思います。自分がよって来たる所のものや、何が使えるかを検証してみることなどの点で、私たちは、新しいものに対して、開かれた態度を持っているべきです。例えば、学びや学校開発、チューターシップなどについての新しい見方なんかもそうです。ケース・フルーフデンヒルは、イエナプラン教育は、ペーターセン以後、古いものと新しいものとの間に「合成を生み出していくこと」となっていた、と言っています。スース・フロイデンタールは「イエナプランは、受容可能なグランドモデル」だと言っている。こういうことは、今私たちが使っているオランダ・イエナプラン教育協会のコンセプトの中でも、20の原則という形で、正当に位置づけられています。

このコンセプト発展の経過において、私自身、イエナプラン教育財団での共同研究とオランダ・イエナプラン教育協会による方向付けとによって、次第に具体的になっていったものと思います。

**Q.本当に、全くあなたのそういうところが、私に、あなたという人が、生き方そのものの首尾一貫性を考えている典型的な人物の一人だと思わずにおかないのです。あなたは、自分が読んでいるもののすべて、学んでいるもののすべてを見ながら、自分自身が一体何に虜のようにとらわれているのかを考え続けている、、、**

A. 確かに私は、簡単には自分をばらばらの状態にとらえることはできない人間です。私は、自分自身をあれやこれやと忙しく追い立ててしまうことがあるし、いろいろなテーマに関心を広げていることもある。けれども、それらは皆、いつもお互いに関わり合っている。初めは全然そうではないと思えるようなこともあるのだけど、そうではなくて、私の場合は、コンセプトのレベルでいろいろなことが皆関わり合っているのです。少なくとも、それを私は追及している。私は、典型的に長距離ランナーのタイプなんです。一定のテーマについては、かなりしつこくしがみつく方ですね。ある時期には、テーマの背景までかなり追いつめている。

**Q.私たちは、総合的な見方・生き方ということについて話を進めていましたが、あなたは、もしかすると、教育という領域を超えて、例えば倫理というような領域にまで広げて物事を位置づけようとしているのではないですか？ あたかもすべてのものは関わりあっていて、そのすべてのつながりを見ることに大いに喜びを感じているというような。**

A. 確かにそれはある。ほかの人はそういう私を見てうんざりするかもしれないけどね。

**Q.私は、あなたが、ありとあらゆるものの中につなぐの線を見出してそこに喜びを感じているというのを、そばで見ている感じたことがありますよ。**

A. ええ、私は、典型的なコンセプト開発者なんでしょう。大きな全体や全体に至るたくさんの糸を紡いでいくことに関心を持っている。特に去年、新しい初等学校のコンセプトを書いているときにそれを強く感じていました。それは、確かに大変疲れることではあるのだけど、結果的にはとても満足のできる仕事です。でも、それとは反対に、私は、ものすごく細かなことにも関心が深い。ほんの小さな教育の小片のようなテーマにもものすごく楽しさを感じるんです。

私は、かつて、私のスタイルは、私自身の自然への見方によって大きく規定されているということを見ました。私は、植物がどのように一緒に生育するかという、植物社会学に大変強い関心があるのです。それについていろいろな見方をすることができます。ある人は、地面に這いつくばってそういうものを座り込んで観察する。コケやなんかだね。それは、1平方メートルを観察することなんです。でも、それとは対照的に、地形のようなものを観察する人もいます。例えばテスヘリング島だとか、クーヘルウィークの砂丘とかのように、地形がどんなふうに出てくるのかを見る。そういう場合には、地形の大きなラインを見ようとするよね。海岸線とか、砂丘の位置とか、植物がどこにどん

な風に生えているかとか。海からの影響が内陸に行くほど小さくなっていく、ということもあるでしょう。

でもそういう見方をしている、同時に、小さいものを精密に観察する視点も必要だ。異なるゾーンは、正確に言うところではどこで分かっているのか？ どのくらいの小さなスケールにしても違いがみられるのだろうか？ 土地の色の違いは、植生の違いでもあるのだろうか？ そうすると1平方メートル四方を観察することが必要になってくる。自分でも気づいたのだけど、私は、常に、この1平方メートル四方を見るということと、大きな地形を見るということとの間を行ったり来たりしている。

私は、クラスに座って観察するのが好きです。また、コンピューターの使い方についてのワークシートを作ることも好きだ。こんな風に、私の仕事の種類は多岐にわたっています。ある瞬間には私は大きな視点から物を見ようとするが、また別の瞬間には、小さなスケールでものを感じ取ろうとしている。そして、学校の実践感覚から離れないようにしているのです。



## 第2回オランダ研修参加者募集



今年3月に、京都教育大学の学生さんたちを中心に行われたオランダでのイエナプラン教育研修旅行。好評のため、2012年3月にも実施の運びとなりました。すでに、10名の京大関係者の申し込みがありますが、同大学の村上忠幸先生のご厚意で、あと5名ほど、同協会の会員の皆様に、参加希望者を募ります。研究費での援助のおかげで、破格の参加費で本場のイエナプランを学べます。申し込み締め切りは2012年1月10日です。

【参加費】1人600ユーロ

《参加費に含まれているもの》

オランダアムステルダムスキポール空港から研修所のあるエヒテンまでの往復交通費、研修中の2回のイエナプラン校訪問・買い物等の交通費、5日間の研修費、受講証明書、合宿所での宿泊費[朝食込]、リヒテルズ直子氏による研修期間中全行程でのコーディネートおよび通訳費。

《参加費に含まれていないもの》

日本からオランダ(スキポール空港)までの往復渡航費、滞在中の傷害保険、研修日程以外の宿泊・滞在費。

【研修日程】

3月11日(日) 夕刻、研修所からの迎えの車でEchtenに移動(約1時間半)、到着後ウェルカムディナー

3月12日(月) 研修第1日目

3月13日(火) イエナプラン校(A校) 全日訪問見学

3月14日(水) 研修第2日目

3月15日(木) 研修第3日目

3月16日(金) イエナプラン校(B校) 全日訪問見学、その後、研修所手配の車でスキポールまたはアムステルダムに移動(移動後帰国までの期間は、参加者の負担で自由行動)

【講師】



期間中のコーディネーション、通訳、サポートは、オランダ・エイル賞(イエナプランに貢献した人に与えられる賞)を取得、また、教員資格のディプロマを取得しているリヒテルズ直子氏が行います。

※写真左からフレーク・フェルトハウス(JAS共同代表者)・ヒュバート・ウィンターズ(JAS共同代表者)・リヒテルズ直子・オランダ・エイル賞

\* JAS(イエナプラン・アドバイス・アンド・スクーリング)は、上記二人のベテランイエナプラン教育専門家が13年前に設立した、(現職)教員のための研修会社。いずれもイエナプラン校の教員・校長の経験を持ち、教員養成大学(PABO)でも講師として長い経験を持つ。(www.jenaplan.nu)

【研修所】

ドレンテ州エヒテン(Echten)にある、自然林の中にある古い農家を改築して建てられたJASの宿泊研修施設。本年度より、マルチプル・インテリジェンスの団体も移転してきて、研修受講者のための展示室を設置。  
(<http://www.hetbovenveen.nl/>)

【お申し込み】

日本イエナプラン教育協会事務局([info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org))



## シリーズ ～オランダ・イエナプラン校訪問レポート・2006～

### 第2回

久保 礼子（日本イエナプラン教育協会福岡支部代表）

今回は、前回に続いてイエナプラン校の4つの活動（サークル対話・仕事・遊び・催し）のうち、遊びと催しについて報告させていただきます。ではさっそく。

#### (3)遊び

・午前中に、おやつ時間も入れて合計90分の遊びの時間がある。

##### ①10時から30分間の自由時間。

遊んでもいいし、課題が終わってなければそれをしてもいい。他のクラスにいてもいい。10時になるとサークルになり、自分の計画を先生に告げてそれぞれの場所に移って。音楽をかけダンスをする子もいれば、ブロックや粘土で遊んだり、絵を描いたり、パソコンに向かう子もいる。

##### ②自由時間後の10分間ほどのおやつ時間

この時間はフルーツ時間と呼ばれていた。フルーツやクッキー、ジュースなど家から持ってきたおやつを食べる時間である。ここでもサークルになり、子どもたちはおやつを食べながら先生に本を読んでもらったり、音楽を聴いたり、連絡事項をきいたりする。

##### ③おやつ時間後20分間の外遊び

フルーツ時間が終わると子どもたちは外へ飛び出して行く。雨が降っていない限り外に出ることになっている。決して広くはないグラウンドだが、クラスや年齢に関係なく、全校生徒が走り回ったり、砂場やジャングルジムなどで思いっきり身体を動かして遊ぶ。先生たちも一斉に外に出て、子どもの様子をおしゃべりしたり、コーヒーを飲んだりしながら眺めている。

##### ④12時から30分間の外遊び

③の外遊びのあと1時間学習があり、再び外遊びの時間があってランチタイムになる。

・集中とリラックスをうまく組み合わせることは、子どもの精神や身体のリズムを大事にする上でとても重要であると考えられている。特に外で身体を思いっきり動かして遊ぶことを大切にしており、お天気のいい日は30分近く延長された。

・遊びは子どもの好奇心を大いに発達させる。遊ぶことで、子どもは良い刺激をうけ発達がうながされる、と捉える。

★ 学習から遊びの時間にはいる時、自分が何をするかをさっさと先生に告げて移動し、次の瞬間にはもうその遊びに夢中になっている姿に、とても驚いた。何をしたらいいかなあ、とぐずぐず考えない。人と相談なんかしない。自分のしたいことをぱっと決めて、すぐにそれに集中して遊ぶのである。途中で人の遊びに気が向いてそちらに移ったり、人のしていることを邪魔したりすることもない。同じ遊びを選んだ人とすぐさま一緒に遊び始める。こんな光景に感動すら覚えるのはおかしいことだろうか。

★ 外遊びの時間から学習の時間に移るとき、この学校では唯一ベルが鳴る。それを聞くと生徒たちはさっさと教室に入り、さっさとそれぞれの仕事(次の課題)にとりかかる。先生方が外から職員室に寄り、コートロッカーにしまっておいた教室に戻ったときには、すでに生徒たちは自分のことに集中している。先生の指示は必要ない。次にすべきことは何かを子どもたちは知っている。自立を育てるとは、このようなことの積み重ねに他ならないのだ。

★ 驚いたことに、この遊びの意味を先(前号)の12歳の少女たちは理解していた。彼女らと日本の学校の話をしていて、日本の子どもたちがストレスをたくさん持っていると話すと、彼女たちは、「日本の子どもたちはハッピーではないの?」と心配し、「自由に遊ぶ時間はあるの?外でみんなで遊ぶ時間はないの?」と問うてきた。この学校のリズムの心地よさ(充分集中して自学学習をし、その後遊びで身体と気持ちを解放させ、また次のしなければならぬことに集中していく)を彼女たちは体でわかっているのだと、思われた。



ダンスをして遊ぶ子ども



ブロックで遊ぶ子ども



おやつタイム



外遊びの様子

#### (4) 催し

- ・毎週金曜日の午後に持たれる。3～4クラスが、順番に取り組んできたことを発表する。保護者も参観にくる。
- ・決して大がかりなものではなく、内容もシンプルで、時間も全部で45分程度。
- ・ステージは、普段は廊下として使っているスペースが簡単にステージになるように設計されていて、とても効率的だった。「催し」がこの学校にとって重要な要素として位置づけられていることがうかがえる。
- ・催しでの発表では、失敗の体験ではなく成功の体験や認められる体験をさせることが重要であり、その中から自己肯定観が育つとする。しかし、教師が手を入れ完成度を高めようとするのはしない。子ども自身が納得いく方法で、またその子が一番得意な方法で、発表すればよい。



廊下がステージ、右上がライク

★発表会といっても本当に大げさなものではない。低学年クラスの発表は、声も小さく動きもたいしてなく、劇というにはお粗末だった。でも、それを中学年、高学年の子たちは、一生懸命応援するように静かに見ていた。

観客として来ていた保護者も同じで、ステージに立った子どもたちの学びの成果をそのまま認めるという雰囲気を感じられた。ステージに立った子どもたちも達成感を持ったにちがいない。



中学年のクラスの劇の発表

★私も日本からのゲストということで、ステージに立たせてもらった。ステージの上でクラスの子どもからインタビューを受け、それに答えるというスタイルだった。言葉の問題があるので、事前にインタビューされ、何度も練習もした。そこに教師がかかわったのは、子どもたちの英語を助けるという形のみだった。インタビューの質問内容は子どもたちが考えていたし、練習に関しても子どもたちが納得いくまで繰り返すのであって、教師の指示はそこにはなかった。私が「もう大丈夫」と何度言っても飽きるほど練習させられた。子どもは本来手を抜かず徹底的にやろうとするパワーを持つものなのだと言われた。いつの間にか大人が主体となり、子どもたちにさせようとする関係になって、子どもが本来持つ意欲や好奇心を奪い取っている場面が日本の教育現場には多いのかもしれない。

★その日の帰りの会のサークル対話で、皆が話しているオランダ語の中から、「礼子」という単語が何度も耳に入ってくる。何だろうと思いと尋ねると、私が今日の催しでよく頑張ったと子どもたちがほめてくれているとのこと。7～9歳の子どもたちが、英語の下手な日本人がそれなりによくやったと私を認めてくれているのだ。小さな子どもたちが何人も私のところに来てハグまでしてくれた。びっくりしたし、たった5日間いただけなのに仲間に入れてもらえた気がして、やっぱりうれしかった。ここでは、こうやって一人ひとりの小さなステップを皆で認め、称えて、次のステップへ進む力を育てあっているのだと実感した。

★催しは、この学校の1週間の流れの締めくりに位置する。子どもたちにも、そう位置付いていて、催しが締めで週末が来る。週末を迎える喜びと解放感で、催しの終了は「イエーイ！」とちよっと大きな声ではしゃぎすぎ、先生方に注意を受ける場面もあった。こうして皆とても明るい表情で1週間を終えた。

1週間イエナプラン校におじゃまして全体として見えてきたことがある。次回はその報告をしたいと思います。



## お知らせ

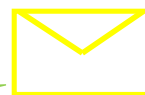
ニュースレターが季刊誌になります(10・1・4・7月)。  
また、今後ニュースレターのバックナンバーを日本イエナプラン教育協会HP(<http://www.japanjenaplan.org/>)の会員専用ページに掲載していく予定ですので、過去の記事をお楽しみ下さい！



## ◆◆◆ リヒテルズ直子の 質問箱 ◆◆◆

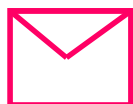


Q1:日本でそのまま使えるイエナプラン教育の教材などありますか



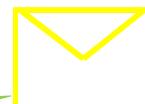
A:リヒテルズ直子より

ありませんし、そうすべきでもないと思います。コンセプトのためのツール、教員の自己評価のツールなどは大いに使えると思います。



Q2:①～③の問題を知る、または解決するには？

- ①公教育と私教育の関係、教育プランの採用主体と公的資金、公共心、道徳性、シティズンシップの育成について。
- ②イエナプランを特別支援を必要としている子ども達に活かすためにはどのような対応策がありますか。
- ③LDレベルの子への対応、体制(到達目標に届かないレベルの子をどう生かす、磨くか)



A:リヒテルズ直子より

- ①は、「オランダの教育——多様性が一人一人の子どもを育てる」(平凡社)と「オランダの共生教育」(平凡社)を参照してください。
- ②・③については、「オランダの共生教育」(平凡社)を参照してください。

## ■重要なお知らせ■

- ・より多くの方にイェナプラン教育を知っていただくため、来年度より年会費が3000円になりました。既にご入会の方は、4年会員とさせていただきますのでご了承ください。(2014年10月まで会費はかかりません)ご不明な点は事務局までお問合せ下さい。[info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)
- ・ニュースレターが季刊誌になります。(10・1・4・7月)今後、皆さまに楽しんで頂けるよう、会員専用ページにバックナンバーも掲載していきます。
- ・11月20日(日)、国立青少年センター(代々木オリンピックセンター)にて、日本イェナプラン教育協会設立1周年記念講演会と、リヒテルズ直子氏ワークショップ(ワールド・オリエンテーションがテーマ)を開催いたします。ワークショップの定員は30名と少な目なので、お早目のお申込を!
- ・協会HPの会員専用ページ・ライブラリーに『ローズガーデン』(2001年に、オランダイェナプラン協会の指導的なメンバーが、協働で「理想」のイェナプラン校の姿を著したものが)第3章まで掲載されています。ぜひご覧下さい! <http://www.japanjenaplan.org/index.html>

### ★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想をお聞かせください。

[info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)

みなさんのご意見・ご感想を心よりお待ちしております。

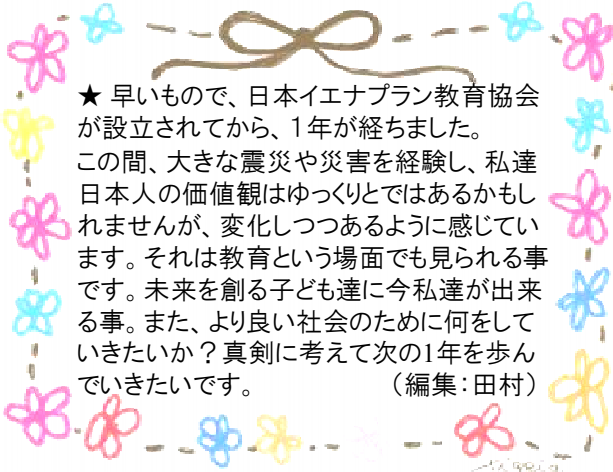
### ★リヒテルズ直子氏への質問を募集しております。

今月号で、8月4日のワークショップで頂いた質問全てを【リヒテルズ直子の質問箱】に掲載致しました。

本を読んでいて、実践の中で、ふと疑問に思った事などを質問箱までお寄せ下さい!皆さまの投稿、お待ちしております。[info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)

### ★各支部のご案内

- 東京支部 [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)  
千葉支部 [chiba@japanjenaplan.org](mailto:chiba@japanjenaplan.org)  
埼玉支部 [saitama@japanjenaplan.org](mailto:saitama@japanjenaplan.org)  
京都支部 [kyoto@japanjenaplan.org](mailto:kyoto@japanjenaplan.org)  
福岡支部 [fukuoka@japanjenaplan.org](mailto:fukuoka@japanjenaplan.org)



★ 早いもので、日本イェナプラン教育協会が設立されてから、1年が経ちました。この間、大きな震災や災害を経験し、私達日本人の価値観はゆっくりとではあるかもしれませんが、変化しつつあるように感じています。それは教育という場面でも見られる事です。未来を創る子ども達に今私達が出来る事。また、より良い社会のために何をしていきたいか? 真剣に考えて次の1年を歩んでいきたいです。(編集:田村)